

誰もが 住み慣れた地域で
最期までいきいきと
心豊かに暮らせる社会に向けて



「医療・介護多職種会議」の様子

本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

これまで、これからも・・・

地域づくりは「お互いさまの支え合い」

高齢者がますます増えていく社会において、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域での支え合いが以前よりも求められています。

地域の困りごとを共有することで、解決策を出したり、これまで個別に行われていた活動を結びつけたりすることができれば、より生活しやすい地域になってきます。

生活支援コーディネーターは、暮らしやすい地域づくりのために、地域みなさんと協力しながら一緒に進めていきたいと思っています。

4つの助で生活は『自立』するといえます。
支え合いで「自助」「互助」力を上げていきましょう♪

支え合いの4つの「助」

<p>自助</p> <p>自分自身で介護予防や、健診などにより健康管理を行い、健康増進や健康維持に努めること。生活を送るために自分や家族の力で問題解決</p>	<p>互助</p> <p>近所の人や友人、ボランティアなど、地域住民が互いに助け合い、それぞれの課題を解決</p>
<p>共助</p> <p>医療・介護などの社会保障制度を利用して課題を解決</p>	<p>公助</p> <p>生活保護、権利擁護などの自治体が提供する公のサービスを受けて問題解決</p>

『高齢者タクシー料金助成事業実証実験』が始まります。

町では、高齢者等に対して、移動手段の確保と交通不便解消を目的に、実証実験として4月から1年間、タクシー利用時に使用できるタクシー券を交付します。

【対象者】 ①～②の条件を全て満たしている方が対象となります。

①令和2年3月31日現在で80歳以上の方 ②石川町に住所を有する方

※ただし、介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）や認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）へ入所している方は対象外となります。

※80歳未満の方で重度心身障害者に該当する方は「重度心身障害者タクシー料金助成事業」をご利用ください。

【助成内容】

- ・ 4月から9月までに申請した場合 500円×20枚を交付（1万円分）
- ・ 10月から3月までに申請した場合 500円×10枚を交付（5千円分）
（タクシー券は1回の利用につき4枚まで使用可）

【利用期間】

令和2年4月1日～翌年3月31日まで（1年間）

【申請窓口】

石川町役場 保健福祉課（令和2年4月1日より受付開始）

【申請に必要なもの】

- ・ 印鑑 ・ 本人確認書類（後期高齢者医療被保険者証など）

【利用できるタクシー会社】

マルイチ新石川タクシー 0120-070-001

【お問い合わせ：石川町役場 保健福祉課 高齢福祉係 Tel.0247-26-9124】

「台風19号被災からその後・・・」

その後・・・

あの大きな被害をもたらした台風19号からまもなく半年になります。「まさか、石川町がこんなことになるとは・・・」という大きな被害でしたが、多くのことが教訓になりました。

現在は、家屋はもちろん、被害を受けた河川や道路等の復旧工事が行われ、被害を受けたそれぞれの地域や関係機関では、今後に向けての話し合いが行なわれています。

多くの方が、このような被害を受けた経験がなく、災害に対する考えや今度災害に見舞われたら：と、避難や災害時の準備品など、色々と考えた方も多かったと思います。

「避難のタイミングの問題」、「夜の避難の怖さ」、「自分は大丈夫という過信」、「住民の命を守るためには、空振りや恐れない避難指示を」、「避難場所がもっと身近なところであれば」、「支援が必要な人への支援の取り決めは？」、「介護が必要な人や認知症のある方には福祉避難所が必要」、「隣近所がみんな被害を受けているので片付けの人手が足りなかった」、町全体の「お互いさま」の助け合いの普及などを、今回の被災からあなたはどんなことを考えましたか。

「医療・介護多職種会議」で
災害時の対応・連携を検討

令和元年12月18日午後6時30分から役場正庁において、「台風19号への対応」をテーマに医療・介護連携多職種会議が開かれ、町内の関係者約60名が参加しました。

会議では、台風19号時の町全体の動きや関係者の対応を共有し、今後の災害に備えて「避難」に焦点をあてた意見交換を行いました。

参加者からは、ダムの状況についての情報不足、避難の呼びかけや避難所の周知のあり方、障がいのある方や認知症の方の避難支援・避難所での対応、介護施設の避難者の受け入れ、必要物品の調達等々、当日の混乱や困りごとから課題がたくさん出されました。

10月12日の台風時、どこがどのように動き、何ができて何が必要だったかが検証でき、各々の機関や関係者が何を考え整えていくべきか、連携の力で何ができるかを確認できた会議でした。

さらに具体的に検討を進め、有事の際に役立てるためのシミュレーションも計画する予定です。

一方、役場の庁内関係部署による会議では、この多職種会議の内容を踏まえて、課題の確認・今後の取り組みの検討を行いました。



多くの町内関係者が集まり意見交換が行われました。

沢田地区自治協議会自主防災
会小委員会が発足

沢田地区では、台風19号の被災状況を踏まえ、地区全体の自主防災組織の立ち上げに取組んでいます。準備のための小委員会発足の目的、経緯、災害時の初動対応、ご近所の助け合いなど、何が必要で何ができるかなど検討が始まりました。
台風19号の被災状況
沢田地区の台風19号の被害は、社川の増水により、下沢井9世帯、

沢井三里4世帯、古内3世帯、鳥内10世帯の合計26世帯が床上・床下浸水し、その他にも田畑の冠水、収穫米の流失、自動車、農機具などに甚大な被害を受けました。

小委員会立ち上げの経緯

被害の大きさを心配した住民の方から、昨年12月に、行政からの指示がなくても沢田地区全体で、身近なところでの支え合いとして、自主防災組織の必要性について話が出されました。小委員会では、災害発生時の応急活動を通して、平常時の活動と「地域の支え合い」「助け合い」がいかに大事なことを再確認し、こうした災害に今後どのような行動をすればよいかを検証する必要があるとの提案がありました。

今後の動き・・・500世帯位の地区だから、何とか助け合う、温度差をなくす活動をしていく。

身近に起きた助け合いの事例や災害時の初動対応、今後予想される災害、継続して取り組む必要性などが、必要な予算を計上し組織化することが出され、小委員会で検討しています。具体的には、どの段階で、いつ、



(鳥内橋)
未だ台風の爪痕が残る社川流域の「鳥内橋」と「梁瀬橋」



(梁瀬橋)

「訪問活動実施に向けて」
動き出す
中谷地区福祉部会

昨年の暮れから、地域のつながりや見守り活動など、地域の関係づくりを進めていくために、行政区ごとに、区長や副区長、民生委員、保健協力員、福祉部会員など福祉に関係する方々が集まり、訪問活動に向けての検討会が開かれました。

2025年には、団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをする。そのことによって、高齢者の一人暮らしや高齢者世帯が増えてくると言われています。中谷地区では、いつまでもこの土

地で、みんなで支え合い、助け合いながら、つながっていくことを目標としています。

今回の訪問は、一人暮らしの高齢者の方など、初めて顔を合わせる人もいます。普段の生活から繋がりが持てるよう意識し、困った時には遠慮せず話ができる関係づくりを目指そうと、みんなで確認しました。今年度は、昨年12月に福祉部会で発行した『なかにに支え合い通信』「なかににみんなでつながっぺ」を配布しながら、福祉部会の活動や目的をPRするとともに、声をかけやすい関係を構築しながら、地域の「輪」を広げていきたいと思いま

なかにに支え合い通信
中谷地区自治協議会福祉部会 NO.1
発行者：福祉部会
中谷自治センター TEL26-1457

「つなごう」・・・中谷地区みんながずっとこの土地で仲良く、活き活きと、支え合い、助け合いながら暮らしていける地域になることを願ってこの名前になりました。

福祉部会活動も2年が経とうとしています。昨年は、福祉部会で会議や研修、終活講演会などを行いました。今年は、活動に向け一歩前進し、各地区での検討会を行うことが出来ました。これから地域に出て訪問活動を進めていきたいと思えます。この「つなごう」は皆さんに福祉部会からの情報をお届けする時に発行していきたいと思えます。どうぞこれからもよろしくお願ひします。(部会長 大竹 芳徳)

これから福祉部会では地域の皆さんの「こうなったらいいな」をつないでいきたいと思えます。まずは訪問活動を行っていきま。

雪が降ると雪かきが大変だなあ
雪かき、お手伝い出来ます!!
草むしりならお手伝い出来ます!!
話相手になってあげたいな。
「ついてのお手伝いから始める支え合いをつないでいきたい!!」
「お茶のみ」しながらついつい出てくる日常の事。自分には無理だなあ、誰かに手伝ってもらいたいなあと思うこととお話してみませんか？私たちは「お茶のみ」は生活支援の入り口と考えて、訪問活動を行っています。地域の情報を教えてください!!

支え合いの第一歩へ!
「地域のつながりを大切に」と発行しました。

「お互いに支え合える」
地域づくりを目指し
沢田地区健康福祉部会

沢田地区健康福祉部会を中心とした傾聴訪問活動も軌道に乗り、利用されている方々からは「訪問を心待ちにしている」「話を聞いてもらえて気持ちが晴々した。」などの喜びの声が聞かれています。定例会では嬉しい報告がされています。

また、訪問活動の際、「トイレに手すりがなくて困っている。」といった困りごと、町の保健福祉課や社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携により、スムーズに対応することができました。これからもちよつとした悩みや困りごとへの解決のお手伝いをしていければと考えています。

2月18日には、有償・無償ボランティア、運動ボランティアに取り組んでいる平田村「ちよこつと助け隊」の視察研修を行い、隊員の方々とお互いの活動について意見交換会を行いました。互いに活発な意見が出され、有意義な交流の場となりました。

助け隊では無償のお手伝いとして、話し相手や電球交換、有償のボランティアでは、ご飯作りや草むし



「ちよこつと助け隊」の視察研修では、隊員の方々と有意義な意見交換が行われました。

り、部屋の掃除などがあります。ボランティアの方々からは、「自分のために活動している。」「これからも楽しいと思えるような活動をしていきたい。」「との声も聞かれました。」「去年当たり前にできていたことが今年ではできなくなっている。」「と感じることが増えてはいませんか？沢田の健康福祉部会では、そんな「困った」を支え合っている仕組みづくりを進めています。」「地域の中でお互いに支え合っている地域づくり」を、皆で考えていきたいと思います。